



行事案内

催し物展

- やきもの展 —山形のやきもの今と昔—
9月6日(土)～11月3日(月)

「郷土と歴史講座」

- 出羽の古代を掘る 10月18日(土)
- 近世の村 11月15日(土)

高等学校クラブ(部)研究発表会

- 郷土クラブ(部) 11月9日(日)
- 科学クラブ(部) 11月30日(日)

文化の日 講演と映画のつどい

11月3日(月)

巡回展

- 子どもの遊び展
飯豊町 10月10日(金)～10月12日(日)
- 目で見える山形の百年展
藤島町 10月24日(金)～10月26日(日)

ニホンカモシカの生態調査

ニホンカモシカは日本特産の動物で、日本の自然史を研究するうえで、生きた素材として貴重な存在であるとされています。

山形県は、比較的標高の高い山岳、丘陵がたつらっており、山地面積が広大で、カモシカの生息には適した環境であり、その生息数の多いことでは全国でも有数の県になると思われます。

県立博物館では、今年度から四か年計画で、山形大学の専門家や関係機関の協力をえて生態や食害防止の調査をはじめることになりました。

調査の結果は、ニホンカモシカの今後の保護のための基礎資料になるものと期待されています。

山形県立博物館教育資料館の開館

昭和48年、国の重要文化財に指定された「旧山形師範学校本館」が、53年10月から55年3月までに解体工事が行われ、4月には、明治34年の秋に竣工した「ルネッサンス調の風格のある姿」が見事に再現されました。

復元後は、山形県教育のあゆみをつづる「教育資料館」に活用されることになり、4月から教育資料の収集・研究と並行して、展示作業が進められてきました。ようやく、10月1日に開館、11日には開館式が行われます。展示概要は次のとおりです。

1 展示のねらい

- (1) 山形県教育のあゆみを、具体的、かつ立体的な展示（資料）をとおして理解し、郷土山形の現在の教育・文化を見つめ、そして未来への展望のなかで、いろいろな教育課題を考え、解決をはかる糸口になるようにします。
- (2) 山形の教育・文化を、山形という枠のみで考えず、〈日本のなかで〉、あるいは〈世界のなかの日本、そして山形〉としての位置づけがわかるようにします。

2 教育資料館の機能

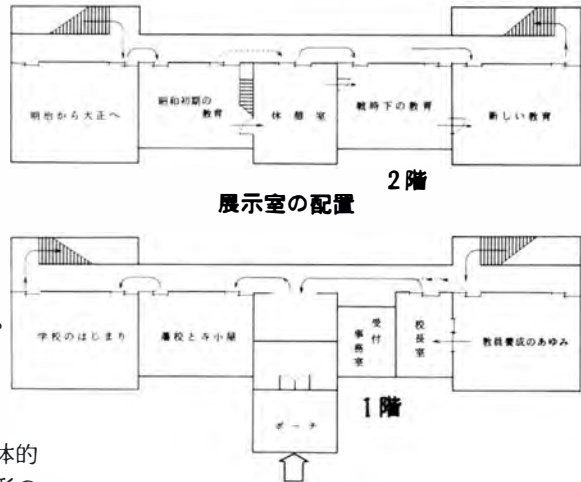
山形県教育に関する資料の収集・保存・研究・閲覧および展示機能を持ち、山形県教育について総合的・専門的に理解できるようします。

3 展示の構成

江戸時代から現在までの、山形県教育のあゆみを、具体的なテーマをもって展開しています。「教育と県民」が大テーマで、7つの中テーマから構成されており、時代的な背景は、学校模型、学習風景ジオラマ、時代を象徴するコスチュームをもって語らせています。



昭和初期の教育
小学一年生の授業風景（ジオラマ）



- (1) 藩校と寺子屋
藩校・郷学、寺子屋・格知学舎
- (2) 学校のはじまり
学制発布と山形・中等学校の開校
- (3) 明治から大正へ
初等教育の充実・中等教育の普及・専門学校と高等学校
- (4) 昭和初期の教育
郷土教育とつづり方教育
- (5) 戦時下の教育
勤労奉仕と学徒動員と
- (6) 新しい教育
六三制義務教育・新制高等学校・山形大学・教育委員会・PTA・へき地教育・特殊教育・幼児教育・各種学校・教育センター・社会教育の充実・社会体育の振興。
- (7) 教員養成のあゆみ
山形師範学校・山形女子師範学校・山形青年師範学校。

4 展示の方法

- (1) 小学校6年から中学校1年の児童生徒にも理解できますが、内容的には、専門的な研究にも十分に耐えられるようにしています。
- (2) 情報を質的に区分し、対象によって必要な情報が選択できるように展示を構成しています。なお、教育資料館の展示は、固定化し完結したものではなく、県民と展示そして学芸活動との緊密関係から、新しい展示が生まれることを期待しています。

ご観覧ください。ご案内申し上げます。

* 催し物展 *

やきもの展 — 山形のやきもの今と昔 —

期日 9月6日(土)～11月3日(月)



山形県のやきものは、江戸時代後期には、20か所近くもの窯場で焼かれてきましたが、明治時代の後期になると、交通が発達して県外のやきものが大量に入ってくるようになり、急速に作られなくな

りました。しかし、最近では、伝統的なやきもの良さが見直され、各地で復興の動きが盛んです。

県内のおもなやきものには、置賜地方に成島焼、村山地方に平清水焼、最上地方に新庄東山焼、それに庄内地方に大宝寺焼があり、それぞれの特徴をもっています。

今回の催し物展は、このような山形のおもなやきものを展示し、すぐれた技術と伝統をもつ「山形のやきもの」の源流をさぐり、私たちのくらしに与えた影響を理解し、現代のやきものを考えるために開催しているものです。

是非、この機会にご観覧下さいませようご案内します。

* 巡回展 *

目で見ると山形の百年展

豊富な収蔵資料を公開して県民の学習に答えることを目的とする、本館主催の巡回展の1つ、「目で見ると山形の百年展」は、山形の近代100年のできごとを、図や写真をとおして理解し、あすの郷土を考えようとするものです。

本年は、10月24日(金)から10月26日(日)まで、藤島町中央公民館で開催します。展示内容は、

- 明治維新と山形の誕生
- 明治の県政
- 大正から昭和へ
- 戦時下のくらし
- よみがえる山形

などです。明治維新前後から、明治・大正・昭和の山形の激動の100余年間のできごとを図や写真



で展示します。是非、この機会に、ご覧下さいませよう、ご案内申しあげます。

「郷土と歴史」講座はじまる

例年多数の受講者を迎えて行われる「郷土と歴史」講座が、今年もいよいよはじまりました。



郷土の身近なテーマを取り上げ、先人の足跡をふりかえり、その生活や知恵を学ぼうというのがねらいで、広く一般の方がのための講座です。

第1回目、9月5日(金)、横山昭男氏(山形大学教授)の「山形の地域史研究」、第2回目、9月19日(金)、北畠教爾氏(県史編さん主査)の「慈恩寺の文化」の2回がすでに行われ、含蓄の深い講話に、受講者は多大の感銘をうけたようです。今後の予定は次のとおりです。

- 10月18日(土)出羽の古代を掘る 保角学芸員
- 11月15日(土)近世の村 金山学芸員
- 12月5日(金)山形の地名伝説 安彦好重氏

大海牛骨格化石調査

昭和53年8月の渇水期に、西村山郡大江町字用を流れる最上川の河床の岩盤で、当時、小学6年生だった渡辺政紀君と斎藤正弘君が動物の骨格化石を発見しました。8月30日、削岩機を使い、河床の岩盤を約 $1.8m^2$ の範囲のまわりに、幅約 $1m$ 、深さ約 $1m$ の溝を掘り、まわりに楔を打ちこみ掘り上げました。約1トンもある岩塊を土ゾリで河岸まで運んだころには、激しい雷雨にあい、雨の中、ユニックで川岸に上げ終えたのは、7時過ぎでした。



昭和53年の発掘作業（土ゾリで運搬）

岩石から骨格化石を掘り出す作業を行ったところ脊椎骨、肋骨、肩甲骨、頭骨、歯などの化石が見つかりました。鑑定の結果、約800万年前の草食の哺乳動物、“大海牛”の化石であることが判明し、世界的な大発見となりました。

レリーフ状にクリーニングした大海牛の骨格化石は、昨年5月に開催した化石展で一般に公開し、現在は、本館の第一展示室に展示しています。

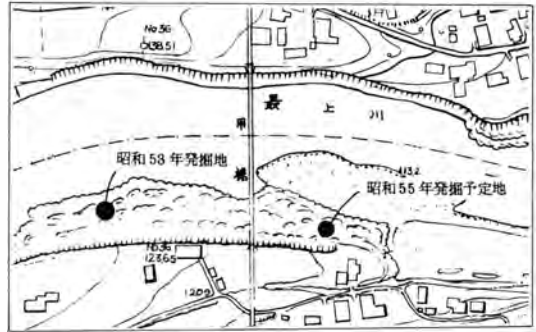
以来、大海牛骨格化石の調査研究の計画を立てて準備を進めてきましたが、今年度、調査が具体化しました。

今年度の調査は、

- (1) 現地周辺の地質調査の精査



昭和53年の発掘大海牛



大海牛の骨格化石発掘地予定地

- (2) 他の化石の発見

以上の調査を進めるために、大海牛骨格化石調査委員会は、

斎藤常正氏（山形大学理学部）

鈴木雅宏氏（県立新庄工業高校）

田宮良一氏（県庁、資源エネルギー課）の方がたと本館の職員で構成されています。

大海牛骨格化石が発見された、大江町字用付近を中心とした地域の地質調査を、最上川の渇水期を待って行う計画です。

今年の7月になり、渡辺政紀君（大江中学2年）から、昭和53年に発掘した地点より約 $150m$ 下流の岩盤に、また動物の骨格化石の発見の情報が寄せられ、8月14日に現地調査を行いました。

一節の長さが約 $14cm$ 、太さ 10 数 cm の脊椎らしい骨と、約 $36cm$ の肋骨、その他若干の骨格化石が確認できました。

本館では、確認された骨格化石の発掘を優先させ、渇水期を待って発掘作業を行う予定です。



発掘予定地の現地調査

* 新展示紹介 *

「日向洞穴の人々」ジオラマ

日向洞穴遺跡は、日本最古の土器の1つの微隆起線文土器を多量に出土し、国史跡に指定されています。

このジオラマは、日向洞穴にすんだ約1万年前の人びとの暮らしを、学問的に考証を重ね、楽しく、わかりやすいように立体的に再現したものです。

秋の午後、洞穴内で縄文人の家族が生活している様子を再現し、妻は洞穴内で、ドングリを加工し、ジネンジョと混ぜてクッキーを作っています。また、夫は、野外の狩をおえて、捕えたイノシシを肩にかついで帰り、子どもが、それを喜び迎えようとしています。洞穴の中には、炉、縄文人の道具・食料・毛皮・石器作りの道具などが見られます。

このジオラマをとおして、現代人の私たちが想像する以上に、高い文化や技術をもって

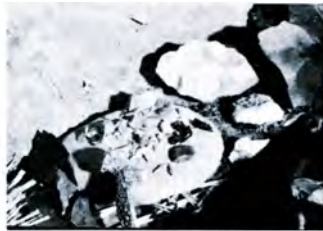
生活していたことがうかがわれ、また、山野をかけめぐって自然に依存して暮らした。私たちの直接の祖先といわれる。はるかな昔の縄文人の生活をしのぶことができます。



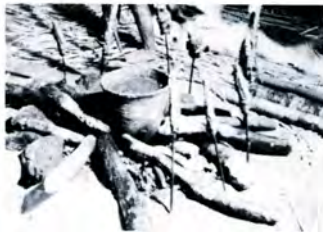
ジオラマ全景



イノシシをかつぐ縄文人と子ども



石器製作場所



炉とそのまわり



縄文人の槍・斧・弓矢



縄文人の女



ドングリを加工し、クッキーを作る

慈恩寺展おわる

特別展「山形の文化財—慈恩寺展—」（7月1日～13日）は、大好評のうちに終了することができました。慈恩寺の歴史はじまって以来はじめて外に出るといふ仏像や仏具、仏画など80点あまりを展示しましたが、庄内や置賜など県内各地、さらに県外からも多数の来館者があり、期間後も「慈恩寺展を……」という方がかなりありました。

めったに拝むことのできない秘仏や仏画が観覧者の目をうばい、なかでも、重要文化財級といわれる、法華曼陀羅仏像群のうちの2体の仏像や、宮城県名取市の新宮寺所蔵の一切経のうち、慈恩寺関係の3巻の経巻が注目されました。多くの方がたが慈恩寺の歴史と文化の奥深さにあらためておどろかれていたようでした。

この慈恩寺展が、山形の歴史や文化に多くの方がたの目をひくことができたことは幸いなことで、快くご協力いただいた慈恩寺一山の方がたに、観覧者と共に厚く感謝申し上げます。これからも、「山形の文化財展」の企画を進めて行く計画ですので、ご協力下さいますようお願いいたします。



生態学講座終る

今年度の生態学講座への申し込みは85名にも達しました。

5月17日の結城嘉美先生による「山形の植物研究史」から始まって、2回目は「湖沼の生態学」横山宣雄先生、3回目は「山形の海産無脊椎動物」鈴木庄一郎先生、4回目は「ノネズミ、ノウサギの生態調査法」大津正英先生と順調に進行しました。

8月2・3日、5回目の「高山帯の動植物」は吾妻山の白布高湯、人形石などでおこなわれましたが、45名にもおよぶ出席者があり、今年度も無事盛況のうちに終了することができました。

展示改装整備事業竣工式

4年前からすすめてきた展示替えが、立派に完成し、7月11日、荒木副知事はじめ、県議会関係者、各方面の協力者、山形第七小学校の児童など多数の方がたが出席し、盛大に竣工式が行われました。

「豊かな自然とそのめぐみ」「山形の大地に刻まれた歴史」「近代山形くらしのうつりかわり」の大テーマを掲げ、展示替えの企画に入ってから7年がかりの事業でした。山形のなりたち、森林の科学、暖流と雪の山形、県内に人が住むようになってからの歴史、人びとの生活や文化が一目でわかるように展示されています。

郷土の歴史や自然が正しく理解され、明日への課題を解決するための教育機関として、広く県民に利用され、愛されるような博物館を目指しています。



東北地区博物館連絡協議会

去る9月11・12日、東北地区博物館協議会が、本館を会場にして開催されました。

11日は、東北地区の博物館関係者約50名が出席し、開会行事ののち、元山形県立博物館長 佐藤信一氏（東北福祉大教授）の講演を開き、午後には、研究協議と総会を行いました。研究協議では、青森県立郷土館学芸員 鈴木克彦氏と秋田県立博物館学芸主事 益子清孝氏の研究発表のあと、各博物館のかかえる問題点を出しあい、意見交換を行いました。

総会終了の後、上市市葉山温泉旅館三恵で懇親を深め、12日に、博物館蟹仙洞・旧尾形家住宅・土矢倉古墳群・上市市立斎藤茂吉記念館を見学し、全日程を終了しました。

山形県立博物館ニュース 第57号 ©

昭和55年9月29日発行

山形市霞城町1番8号（〒990）

山形県立博物館（TEL 45-1111）